京都府不動産コンサルティング協会
不動産のプロフェッショナル集団

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は長年当財団の賛助団体として、ご協力いただいている、京都府不動産コンサルティング協会（以下当協会）です。新しく理事長に就任されました、柳田基浩理事長にお話を伺いました。

不動産コンサルティング協会の活動

当協会では年間60件以上の相談を受けており、相続、空き家、利活用、建物の老朽化、借地・借家の権利関係など多岐に渡る課題について、ワンストップで対応できる体制づくりをしています。ご相談を受けた場合、公認不動産コンサルティングマスターが相談者の状況や希望をしっかりと把握し、最良の解決策を見つけることを目指しています。宅地建物取引士をはじめ、弁護士、司法書士、税理士、不動産鑑定士、土地家屋調査士などの専門家が相談対応を行います。

社会活動の取り組み

これまでに、行政の住宅政策、空き家対策、京町家の保全継承支援など様々な取組に協力してきました。京町家の利活用においては先進的な資金調達スキームの実践をはじめ、当協会のノウハウを活かし、実務的な解決を支援しています。社会に貢献し、京都のまちを良くしていきたいという思いで関わっています。

理事長就任の意気込み

人の暮らしや地域に大きな影響を及ぼすことになる、相続、空き家の問題などに際して、当協会が解決の糸口を見つける役割を果たせればと考えています。

前列左から4番目柳田基浩理事長

京都府不動産コンサルティングホームページ
https://www.krca.or.jp/

不動産なんでも相談会

毎月第３土曜日　会場 京都市景観・まちづくりセンター相談室
相談時間：13:00〜15:00　予約制　1日2組限定　電話075-251-1145
共　　催：（公財）京都市景観・まちづくりセンター
後　　援：京都市

お気軽にお電話ください

京まち工房 95
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

特集 P2-3
みんなでつくろう 地域の防災まちづくり計画

CONTENTS

P1 京都人㋜の京都知らず
P5 オンライン化！ 景観・まちづくり大学
P7 「私と京都」／京都人㋜の京都知らず 編集後記
P4 2021年度 京都景観エリアマネジメント講座
P6 地域まちづくり・京町家の専門家紹介
P8 企業・団体紹介

令和3年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様

「京ぐらし」ネットワーク	アルパック 株式会社 地域計画建築研究所	JR this is japan. ISETAN	「価値ある相続」をコーディネート 一般社団法人 相続相談センター
フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議
公益社団法人 京都市観光協会	ART GALLERY & RENTAL SPACE be-kyoto	株式会社都ハウジング	大阪ガス
一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	京町家をお探しします。株式会社 八清（ハチセ）	京都信用金庫	SAPPORO
中藏	京都でんき Produced by HAUSENE	京都中央信用金庫	住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency

公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る
梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP：http://kyoto-machisen.jp
HP
Facebook
京都市景観・まちづくりセンター　検索

※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。

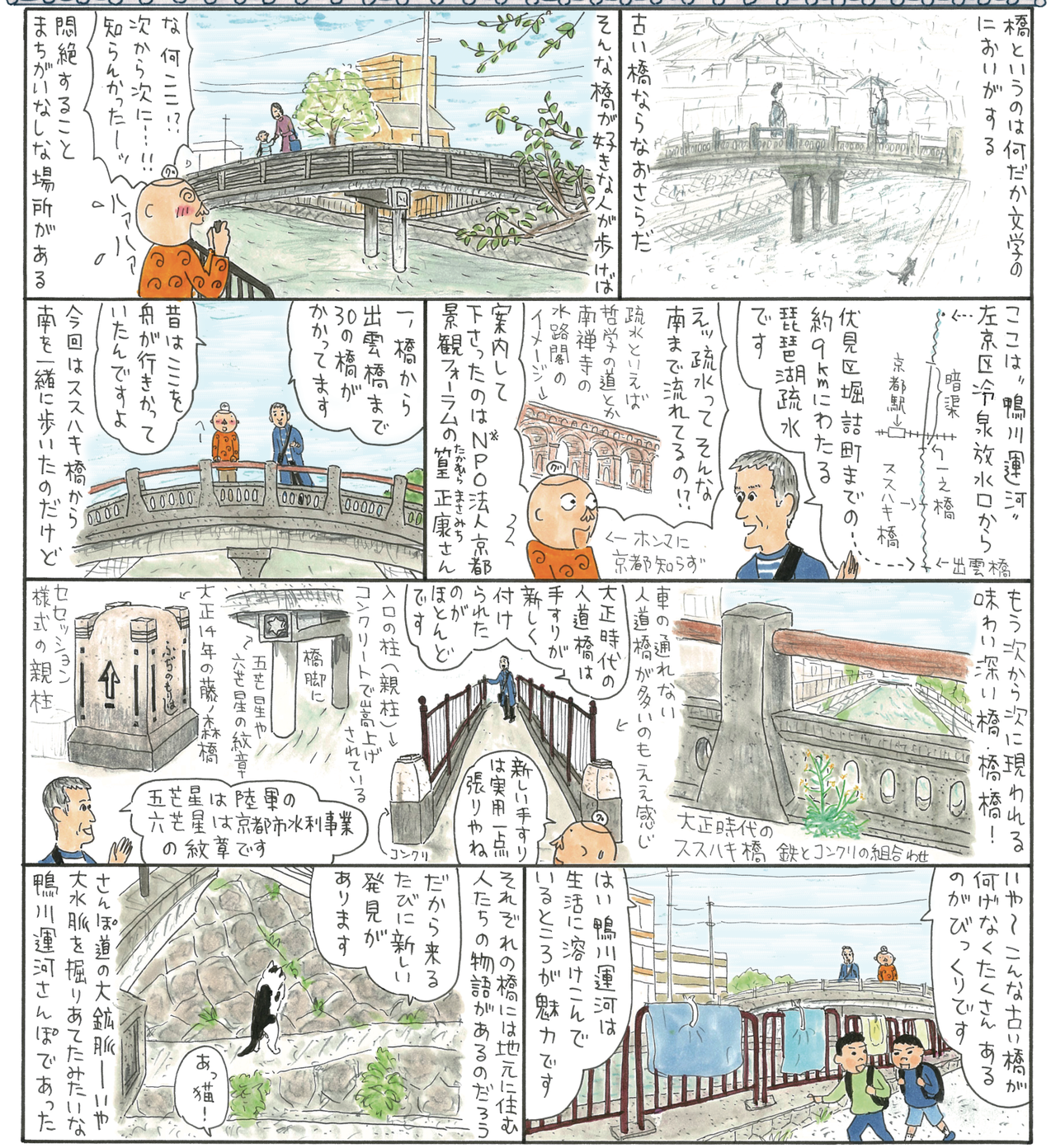
KES ステップ１登録　この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター京まち工房　第95号　2021年6月　編集・発行：公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

ニュースレター
京まち工房 95
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

グレゴリ青山 京都人㋜の京都知らず　その13 鴨川運河橋づくし



※NPO法人京都景観フォーラムは、鴨川運河の保全・活用を進める市民団体「鴨川運河会議」の支援を続けています。

みんなでつくろう 地域の防災まちづくり計画

もしも、自分が暮らしているまちに災害が起きたら――。災害から身を守るためには「公助」だけでなく、「自助」「共助」の取組が欠かせません。避難経路を把握し、みんなで防災について考えておくことは、防災力の向上だけでなく、地域のつながりを強くすることにもつながります。

学区全体、そして町内会で防災まちづくりに取組む際、役立つのが計画書。当財団では京都市と協力して、地域のみなさんが防災まちづくり計画を作る取組を支援しています。昨年度、「京都市密集市街地・細街路における防災まちづくり推進制度」に基づく防災まちづくり計画を策定した教業学区（中京区）と、地域独自の地区防災計画を策定した大原学区（左京区）の事例をご紹介します。

教業学区の防災まちづくり

現状・課題

教業学区は、中京区のほぼ中央に位置し、東は堀川通、西は神泉苑通、北は押小路通、南は三条通に囲まれ、21か町で構成されています。

学区内に中京区役所、地下鉄二条城前駅があるなど利便性が高く、平安京造営の時に造られた神泉苑、徳川家が築いた二条城、二条陣屋などの史跡があります。黒門通、岩上通、猪熊通、神泉苑通などの通りは、豊臣秀吉が聚楽第を造営する時に整備されたものです。

課題は、木造建築物が密集していること、行き止まりの路地が昔のまま残っていること、各町内会の骨格道路に幅員4メートル未満の箇所が多くみられることなどです。避難所に元教業小学校が指定されていますが、大地震が発生した際、避難が難しくなる可能性があり、複数の避難ルートを想定しておくことが望まれます。

これまでの歩み

教業学区では平成27年から、自主防災会が中心となり、総合防災訓練で「安否確認用黄色いハンカチ作戦」「災害図上訓練」「自主防災会防災マップの作成」などの活動に取り組み、平成30年度から防災まちづくり計画策定を視野に入れた取組を始めました。

平成30年の勉強会

令和元年の防災まちあるき

平成30年には、防災まちづくりなどをテーマにした勉強会を2度開催し、防災まちあるきで学区内の路地、道幅、危険な個所を点検しました。平成31（令和元）年度にはワーキングチーム会議を立ち上げ、全世帯を対象に防災まちづくりアンケートを実施しました。

令和2年度もワーキングチーム会議による会議を続け、「『互いの助け合い』の心が広がり、顔の見える安心・安全な教業のまち ー町内会を基本とした防災まちづくりー」を目標に、防災まちづくり計画を策定しました。

令和2年の総合防災訓練

令和3年2月、防災まちづくり計画の内容が地域に承認された

今後は、自主防災会と自治連合会が協力して防災まちづくりに取り組んでいきます。災害で元教業小学校が使用できなくなった場合、二次避難所の「立命館朱雀キャンパス」までどのように安全に避難するか、避難所の運営の仕方など、まだまだ議論を進めていく予定です。

教業学区自主防災会・嫁兼弘純会長から

数千人が住む学区も、大災害の前では小舟に乗った運命共同体です。「防災まちづくり計画」をもとに防災訓練などを積み重ね、いざという時は訓練してきた行動をとり、避難所では炊き出しのおにぎりをみんなが食べて、「訓練しといてほんまによかったなあ」と話し合う。牛の歩みで千里先の「災害に強いまち」を目指します。

嫁兼 弘純会長

大原学区　地区防災計画を策定しました！（令和３年３月版）

大原学区はどんな地域？

大原は、豊かな自然に囲まれ、平安時代から都に近い「里」として歴史を重ねてきました。近年は、生活の都市化の進展・農業の後継者離れなどにより、農地の荒廃・放置を始め、大原の里としての自然的、歴史的環境の衰退が進み、人口減少が課題となっていました。学区の大半が市街化調整区域で、建築や開発が自由にできないという制限があります。

【大原学区の位置】

取組の経緯

平成15年に、地域の未来を展望した「京都大原里づくりプラン（以下、「プラン」）」を策定し、平成25年に一度目の改定を行いました。

改定から5年たち、地域を取り巻く新たな課題に対応するため、プランの再改定を進める過程で、近年頻発している災害に対して備えが急務であることが再認識され、プランの重点プロジェクトである自主的な「防災計画」の策定に取り組むことになりました。

地区防災計画とは？

（災害対策基本法に基づく制度）

- 防災活動に関する計画を、地域の実情に合わせて、住んでいる方や事業者が、自分たちのために作ります。
- 助ける・助けられる（する側・される側）という計画ではなく、みんなで助かることが目的です。
- 学区単位・町内会単位など、皆さんの活動する範囲で自由に設定できます。
- すでに取り組んでいることを計画としてまとめるだけでも、地区防災計画になります。
- 初めから完璧なものを作る必要はなく、徐々に充実させ、無理なく続けられることが大切です。

（7月の「地区防災計画勉強会」より）

室崎 友輔氏
（地域防災プランナー）

策定までのプロセス

- **地区防災計画勉強会の開催（7月）**
  地区防災計画の概要や他地域での事例を学びました。

- **自主防災会役員会（7月～3月）**
  課題や必要な対策について話し合いを重ねました。
- **アンケートの実施（7月・9月）**
  2回の調査で、災害時に各集落が抱える課題を把握しました。

- **ニュースの発行（7月・12月）**
  取組の周知や今後の取組の共有のため、ニュースを全戸配布しました。

- **令和3年3月 大原学区地区防災計画 策定**
  役員会やアンケートで共有された地域の課題を基に、地区防災計画のとりまとめと防災まちづくりの対策を進めました。

【地区防災計画の策定】
・集落が点在し、災害時に孤立する危険性がある
→**防災本部の連絡体制の確認**
→**学区版・各町内版の2種類を作成**し、町内版では、**町内ごとの課題に応じたきめ細かい対策**をまとめました。

【防災まちづくりの取組】
・避難所が遠い、少ない
→集落内のできるだけ身近な教育施設・お寺と協定を結び、**新たな指定避難所を2ヶ所増設（合計4ヶ所に）**
→**避難所運営マニュアルを改定・策定**し、概要版を**全戸配布**

まちセンの支援制度を活用

課題の収集やとりまとめ等のサポートを行う、まちセンの「まちづくり専門家派遣」や、講師謝金、ニュースや計画書の印刷費等に利用できる「協議会活動助成」を活用し、地域で自主的な取組を進めました。

専門家（京・まち・ねっと：石本幸良氏）の協力も得て、大原に合った地区防災計画をまとめました。これで完成ではなく、地域は大きな家族であるという意識を共有し、地域の自助・共助の精神を進化させたいと考えています。今年度は、災害時に避難支援を希望される方のための「安心台帳」の見直しを行い、防災まちづくりの取組を充実させていきたいと思います。
みんなで助け合い、安心安全なまちづくりを実現することで、「里づくりプラン」の目的の一つである人口減少対策につなげていくことを目指しています。

田家 正雄会長
（大原自治連合会）

7月開講　2021年度

主催：NPO 法人 京都景観フォーラム、まちセン　後援：京都府、京都市

京都景観エリアマネジメント講座 受講生募集中

昨年度はコロナ禍により開催できなかった京都景観エリアマネジメント講座（エリマネ講座）ですが、今年度は、従来から内容を刷新して開催します！ 新しいエリマネ講座で何を学べるのか、基礎講座の内容を中心に紹介します。

エリマネ講座とは

歴史・建築・文化・法律・政策など、さまざまな視点から景観とまちづくりへの関わり方を身につける連続講座です。2019年度までの10年間で、基礎講座を255名（通年受講のみの人数）、その次のステップである実践講座を106名の方が受講しています。

基礎講座
▼
実践講座
▼
京都景観エリアマネージャー認定

基礎講座カリキュラム

講義科目　実習科目

第1回　7月10日(土)　基礎理論1　景観とは何か?
堀 繁氏　東京大学 名誉教授・一般社団法人まちの魅力づくり研究室理事
「景観」を学ぶ　～景観の良い悪いは人しだいだろうか?～

第2回　8月21日(土)　基礎理論2　景観のマネジメント
宗田 好史氏　京都府立大学教授
景観を規制する仕組み、誘導する方策
Workshop1　景観エリアマネージャーの役割とは　NEW!

第3回　9月18日(土)　景観と都市形成
中嶋 節子氏　京都大学大学院　教授
近代の京都と景観　NEW!
Workshop2　まちのことを調べてみよう　NEW!

第4回　10月16日(土)　まちとまちなみ
森重 幸子氏　京都美術工芸大学 准教授
現代の社会における京都とまちと住まい　NEW!
魚谷 繁礼氏　魚谷繁礼建築研究所 代表・京都工芸繊維大学 特任教授
歴史都市における地域計画と建築計画　NEW!
Field work　まちを見てみよう　NEW!

第5回　11月20日(土)　公共空間のデザイン
山口 敬太氏　京都大学大学院 准教授　NEW!
景観デザインと多主体協働のまちづくり
Workshop3　地域の景観課題を見出してみよう　NEW!

第6回　12月11日(土)　京の生活文化
町田 香氏　京都芸術大学 非常勤講師
生活文化と日本庭園　NEW!
谷 晃氏　野村美術館 館長
和漢の境をまぎらかす
笹岡 隆甫氏　華道「未生流笹岡」家元
伝統文化から受け継ぐ美意識

第7回　2022年1月15日(土)　自然資源と観光資源の活用
深町 加津枝氏　京都大学大学院 准教授
京都の自然を活かした景観マネジメント　NEW!
阿部 大輔氏　龍谷大学 教授
観光再生における景観マネジメント　NEW!
村上 佳代氏　文化庁 地域文化創生本部 文化財調査官
文化財を活かした観光まちづくり　NEW!

第8回　2022年2月19日(土)　景観まちづくり
髙田 光雄氏　京都美術工芸大学 教授・京都大学 名誉教授
景観政策における「まちづくりアプローチ」

修了式

講義科目

景観とは何か、そして景観を読み解くスキルを様々な分野の講師陣から学ぶことができます。今年度は、新たな講師陣に多数ご協力いただいています。
※講義科目は1講義単位の受講可

実習科目

本年は座学に加え、ワークショップやフィールドワーク等の実習科目を新設しました。「まちを見る視点」を京都の市街で実践し、チームに分かれて課題に取り組むことで、より深い学びが可能となります。

Workshop2
まちのことを調べてみよう
地域の歴史、文化、景観資源、景観規制などの情報を、文献や統計資料から調べる方法を学びます。

Field work
まちを見てみよう
「まちを見る視点」を学んだうえで、チームごとに地域に出向いてフィールドワークを行います。実際にまちを歩いてみて気づいたこと、気になったことなどを挙げてみましょう。

実践講座もリニューアル！

仕事や地域まちづくりにどのようにこの講座の学びが活きるのか、実践講座を修了し、京都景観エリアマネージャーに登録された方から学ぶ回を新設しました。実践講座のメインであるグループ・個人の発表の充実はもちろん、現場での活躍へとつながることを期待しています。

※実践講座の受講には、規定回数以上の基礎講座の受講が必要となります。

京都景観エリアマネージャー紹介動画はこちら

受講料 ※学生半額	**通年受講**（全8回） 一般 45,000円／NPO会員 40,000円 **講義ごとの受講**（講義科目のみ） 1講義あたり 4,000円（第1回のみ5,000円）
会　場	まちセン内ワークショップルーム

講座詳細、申込は
京都景観フォーラムHPへ

※写真はイメージです。実際の講座内容とは異なる場合がございます。
※新型コロナウイルスの感染拡大状況等により、日程・内容等が変更となる場合がございます。HPに最新の情報を掲載しておりますので、随時ご確認ください。

ご自宅や外出先でも受講可能

オンライン化！景観・まちづくり大学

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、人が集まるイベントが中止や縮小を余儀なくされる状況が1年以上も続いています。景観・まちづくり大学も、以前のようなワークショップルームでの開催は難しくなりました。

コロナ禍の中、今年も京都のまちづくりや京町家についての最新の話題をお届けする景観・まちづくり大学。ますます便利に、ますます幅広い方々に受講していただけるよう、新たな形になりました。

［オンライン受講が可能に］

景観・まちづくり大学は、これまで基本的にワークショップルームでの受講のみでしたが、今年度は、ZOOM（オンライン会議アプリ）を用いたオンラインセミナー形式で開催しています。オンラインで開催することによって、京都に関心のある遠方の方や、「会社終わりに会場に移動しても間に合わない」「夜は家を空けられない」「自宅でくつろぎながら受講したい」といった方も気軽に受講できるようになりました。

もちろん、これまで何度も受講していただいている方にもご参加いただけるよう、引き続き最新のテーマを取り上げたセミナーをご用意しています。

［お申込みもオンラインで手軽に］

オンライン受講のお申し込みは、「PassMarket（パスマーケット）」（Yahooが提供する、オンラインにてイベントへの参加申し込み、チケット購入等ができるサービス）より受け付けています。

「PassMarket」には、右記のQRコードよりアクセスしてください。

オンライン受講お申込み手順

「PassMarket」内の景観・まちづくり大学の申込受付中の講座一覧が表示されているページにアクセス

※「PassMarket」トップページから、
京都市景観・まちづくりセンター
で検索しても表示されます。　https://bit.ly/3wYTnCU

申込受付中の講座一覧の表示イメージ（春季講座）

参加したい講座をクリックし、内容を確認

「チケットを申し込む」をクリック
チケット申し込みボタン（イメージ）

案内に従って必要事項を記入し、申し込む
※受講料は、お申込みの際に選択された方法にてお支払いいただきます
※キャンセルについては、各講座のイベント情報に記載されている「キャンセルポリシー」をご確認ください

講座開始までに、お申込みの際に記入されたメールアドレスに「招待メール」が届きます。講座開始の直前に、招待メールに記載されているURLにアクセスして下さい。

［ワークショップルームでの受講もできます］

オンラインでの受講が苦手、ネット環境や機器に不安がある、という方には、各講座10名限定で、これまで通り当センター内会場（ワークショップルーム）にて受講いただけます。お電話、Eメール、FAXにて京都市景観・まちづくりセンターまで直接お申し込みください。受講料は、当日現金にて申し受けます。
※状況によりワークショップルームでの受講を中止する場合があります。

7月から始まる景観・まちづくり大学（夏季）も、オンライン受講が可能な講座をご用意しております。講座内容について詳しくは、当財団HPイベントページ（http://kyoto-machisen.jp/event/）または景観・まちづくり大学（夏季）チラシをご覧ください。

ー令和6年度までの運営方針ー　第6次中期経営計画を策定しました

まちセンの今後5年間の運営方針となる中期経営計画を策定しました。まちセンの橋渡し機能の肝であり最大の財産である人的ネットワークを生かすため、人材面の梃入れとともに、調査研究機能の強化や試行・先導取組など独自事業を積極的に展開し、自主財源の確保につなげていきます。6つの基本方針を柱としつつ、コロナ後など社会経済情勢の変化や京都市財政の動向も考慮して、最適な財団運営と事業展開を行っていきます。

1. 地域まちづくりの支援
2. 京町家をはじめとした歴史的建築物の保全・継承
3. 情報の収集・発信・活用の強化とネットワークの充実
4. 指定管理の充実
5. 財務の自立化
6. 組織体制の整備

第21回　地域まちづくり・京町家の専門家紹介

住まい手の想いを受け取り、建物の価値を伝えることを使命として

当財団は、多くの専門家の方々のご協力のもと、地域まちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。
このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い想いをもって京都のまちにかかわる専門家の方々をご紹介しています。

今回はこの方!

栗山（くりやま） 裕子（ひろこ）氏

Ｗｉｎ建築設計事務所　主宰、（一社）京都府建築士会　監事、京町家相談員（建築士）、（公財）京都市景観・まちづくりセンター　評議員、（認定NPO）古材文化の会　副会長

岐阜県中津川市生まれ、幼少期を京都で祖母と暮らす。「地元の木材や古材を使う」「もとの形にこだわり改修する」ことをテーマに、風景に溶け込む建物の設計や、地域の伝統的な建物を残すための活動に取り組む。京町家の価値を伝える京町家カルテ委員を長年つとめる。

ー木造建築のすばらしさに気付く

もともとは、商店建築を中心に手掛けていました。材料としての鉄、コンクリート、ガラスが好きでしたが、なぜか「やり応え」を感じませんでした。作るために壊す、ということが繰り返されているのを見て、「何かが違う」と感じていました。

そんな時、趣味の登山を通じて山が荒れている様子を目の当たりにし、なぜ手入れされずに放置されているのだろう、という疑問と興味がわきました。同じ頃、NPO法人古材文化の会の前身である古材バンクの会のメンバーと出会いました。それらの出会いを通じて、長年培われた木材に関する知恵や技術が日本の建築の中にあることに気付き、木造建築に、そして日本に昔からある民家建築に傾倒していきました。

ー時の重みを感じながら

新築の建物を設計する際に心掛けることは、近在の木材を使うことと、職人の手仕事を取り入れることです。新築の建物と歴史を重ねた建物では、持っている時間の重みが異なります。新しいものだけでは軽く感じる空間でも、一部に古い部材を使うと、全体が引き締まります。不思議と新しい空間に古材がなじむのです。

京町家をはじめとした古い民家を保全・再生する活動に携わるようにもなり、まだ使えるものを捨てる切なさが、活かすことのできる喜びに変わっていきました。

ー人の手を入れた住宅を届けたい

京町家改修の仕事には、私自身の幼い頃の京町家での生活体験が活かされていると思います。京町家での生活を知っていることが、住まい手の想いを理解する「よすが」になっています。

京町家は、生活に便利なように作られています。しかし、その便利さはマンションの便利さとは異なり、人が建物に合わせ、慣れ親しむことが求められます。建物と住まい手は一体です。建物を受け継ぐためには、住まい手の想いが最も大切だと思います。

建築士として活動する上で大切なことは、建物のことをきちんと伝えることだと思います。貴重な材料や職人の手仕事について一緒に発見し説明することが、住まい手の大きな気付きにつながることがあります。

建物の価値は、立派だとか豪華だとかとは関係ありません。職人の手仕事や想いが込められた建物は、おいそれとは壊せない価値を持っています。新築の場合も、後年に大きなごみとなることのない、人の手を入れた建物を作ることを意識しています。

人の営みの中で建物が持つ力は大きいと実感しています。これからも、いろいろな生活があり、想いがあることを、建物を通して伝えていきたいと思います。

私と京都

外来生物考

京都市都市計画局 住宅政策担当局長　籏 哲也 氏

散歩は、始めは腰痛予防のためでした。休日になると足の向くまま、気の向くまま、あちこちフラフラ歩くのですが、いつの間にか散歩自体が目的化し、景色や街並みに目を向けながら歩き回るのが、すっかり楽しみになりました。

散歩で気になるのが、道端や河川敷の小さな草花、いわゆる雑草です。特に初春から初夏にかけては色とりどりの草花がウワーッと競うように咲きます。「散歩で見かける草花」というような本を買ってきて、少しずつ調べて名前を覚え、種類を見分けられるようになると、ますます愛着を覚えます。

お気に入りは青い花で、オオイヌノフグリやオオカワヂシャ、マツバウンラン、ほかにも赤い花のヒメオドリコソウ、ムラサキカタバミ、ニワゼキショウ、白い花のオランダミミナグサ、シロツメクサ、ハルジオン、黄色い花のノボロギク、セイヨウアブラナ、コメツブツメクサなどなどいろんな花が。皆さんも、名前は知らずとも、「ああ、見たことある」というものばかりです。

オランダとかセイヨウ（西洋）とか、名前でズバリわかるものもありますが、これらは実はみーんな外来種なのです。外来種は、既存生態系への影響が懸念されるのですが、これだけ普通に自生しているとホントに外来種というべきなのか。かつて、私達の世代が子供の頃は、全国の空き地にセイタカアワダチソウが繁茂し、ススキの絶滅も危惧されました。結局、今では控えめに在来種と共存していますが、外来種をどう考えるべきかは、いろいろと難しいものがあります。

そういう私も名古屋の生まれで、高校卒業後に京都へ侵入した外来種です。妻は京都生まれなので一応在来種だとして、２人いる子供は交雑種ということになります。天然記念物のオオサンショウウオに対し、最近、中国産の外来種が増え、さらに在来種との間の交雑種は、性格が荒く、危険視されているそうです。我が家の交雑種は２人とも大学生となり、他都市へ外来種として侵入中です。性格は荒くないのですが、果たして……。

話が逸れましたが、まちづくりでは外来種も必要といわれています。京都はその典型で、1200年以上にわたって連綿と文化を引き継ぎつつも、常に外部から新たな刺激を取り込んで成長してきたといわれています。ならば外来種の私も、道端の草花のように京都に馴染んで、与えられた職責を果たすことを通じ、京都のまちづくりに微力ながら貢献していきたいと思うのでした。

京都人㋗の京都知らず　編集後記

JR稲荷駅から墨染ダムまでのおよそ４kmにわたる鴨川運河沿いをグレゴリ青山さんと一緒に歩きました。鴨川運河の中でも、南禅寺付近を流れる琵琶湖疏水水系は観光スポットとして有名ですが、京都駅から南側についてはほとんどその存在を知られていないのではないでしょうか。

今回歩いた地域は、短い間隔に小さな橋が連なる水辺景観の魅力はもちろんのこと、近くの学校の学生さんたちが友達とおしゃべりしながら歩いていたり、運河沿いから個人宅の庭の草花が楽しめたり、運河と生活空間が共存するゆるやかな雰囲気がなんとも素敵で、歩道を散歩する猫ちゃんも心なしかのびのびとしているように感じました。

今秋に鴨川運河の歴史と景観を歩きながら学ぶまちあるき企画を考えています。興味のある方はぜひご参加ください。（鞍元）

著者：グレゴリ青山

漫画家、イラストレーター。1966年、京都市生まれ。壬生の地で生まれ育つ。現在は京都府亀岡市在住。『グレさんぽ　猫とかキモノとか京都とか』（『京都人㋗の京都知らず』収録）等、京都が舞台の著書多数。現在、京都国立博物館のホームページ（https://www.kyohaku.go.jp/）で『グレゴリ青山の深掘り!京博さんぽ』を連載中。